

(別紙資料)

磯焼け対策国際シンポジウム「東アジアにおける磯焼けの現状とその対策」

藻場は、魚介類にとって産卵や幼稚仔の育成の場であり、磯焼けによる藻場の減少は水産業に多大な影響を及ぼしている。我が国の沿岸は、磯焼け等により数千 ha の藻場が消失している。磯焼け対策を確実に推進し、藻場の維持・拡大を行い、我が国の豊かな水産資源や生態系の再生を促進することが喫緊の課題となっている。

近年、南日本で磯焼けの原因となっているアイゴなどの植食性魚類は、近隣諸国沿岸資源との遺伝子交流が考えられ、一方、北日本で問題となっているキタムラサキウニは、東アジア北部に広く分布し日本に相当量が輸出されている。これら植食動物の問題は、我が国に限ったものではなく東アジア共通の問題である。また、地球温暖化など大規模な環境変化が磯焼けを助長するとの意見があることから、我が国の各地の磯焼けに個別対策を講じるだけでなく、環境と資源を共有する東アジア全体での共通認識と捉え、東アジア各地の磯焼けの状況やその要因を相互に知る必要がある。本シンポジウムは、これまで我が国で得られた成果を東アジアの近隣諸国に紹介するとともに、東アジア各国等の藻場や磯焼けの現状、対策例、課題などの情報を収集し、情報の共有を行い、研究者ネットワークを構築する。

1. 開催場所：東京海洋大学「楽水会館」 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

2. 開催日時：2008年8月1日(金) 9時00分~18時

3. 主催：水産総合研究センター、東京海洋大学

4. 共催：水産庁

5. プログラム(使用言語：英語)

9:00 開催挨拶 東京海洋大学学長

水産総合研究センター水産工学研究所所長

9:15 企画趣旨説明 東京海洋大学 藤田 大介

「第一部」 海外からの報告

9:30 アメリカ Moss Landing Marine Laboratories Michael H. Graham

ロシア Sakhalin Research Institute of Fisheries & Oceanography Dmitry Galanin

中国 Institute of Oceanology, Chinese Academy of Sciences Duan Delin

韓国 Korea Ocean Research & Development Institute Rae-Seon Kang

12:00 昼食

13:00 台湾 National Penghu University Jiann-Jang Tzeng

香港 The Chinese University of Hong Kong Put O. Ang, Jr.

「第二部」 日本からの報告

14:30 東京海洋大学 藤田 大介

水産庁 佐藤 昭人

水産総合研究センター水産工学研究所 桑原 久実

水産総合研究センター水産工学研究所 川俣 茂

長崎大学 山口 敦子

高知県水産試験場 田井野清也

水産総合研究センター中央水産研究所 宮田 勉

17:30 まとめ Michael H. Graham & 藤田大介

17:45 閉会挨拶 水産庁